



# 喜多登

## 後軍記念碑建立一二〇年

当宮御本社の境内南面に、高さ2mほどの石碑があります。これは明治二十七年、二十八年(一八九四〜九五)の日清戦争において、北野村(梅田の旧地名)から出征した兵士を顕彰する為に、明治三十年(一八九七)三月に建立されたもので、今月はその建立からちょうど百二十年になります。

この日清戦争は、朝鮮半島の動乱を発端に拡大した戦争であり、日本にとっては、近世と近代の節目ともなった戦争でした。

大きな対外戦争であった事から、戦後はその顕彰活動が各地で行われ、至るところで石碑などが建てられました。第二次世界大戦後、戦争を礼賛するものとして、これらの顕彰物の多くは破却されました。

しかし、当宮の従軍記念碑は、あくまでも北野村から出征していった人々の名前を後世に伝える事を目的に造られていた事から、梅田の歴史において必ず後々意味あるものとなる事を予期して、破却はせず、戦後、当宮の境内に埋め残されました。

戦後三十年が過ぎた、昭和五十二年(一九七七)、天神さまこと菅原道真公が薨去(お亡くなり)になられてから二十五年後ごとに行われる萬燈祭の一七五年目の節目の年に、当宮でも境内整備事業を行う事になり、その一環でこの石碑を再び掘り起こし、現在の場所に据え置かれました。この年はちょうど記念碑の建立から八十年目の年でもありました。

現代、日本は平和の尊さを希求し、七十年を超えて平穏な時代を送ってきていますが、日清戦争の火種ともなった朝鮮半島では、いまだ非常に不安定な状況となっています。これから先、どのような状況になっていくのかは分かりませんが、時を経て、この従軍記念碑に刻まれた方々の御霊は今の時代をどのようか思いでお見守りになられているのかと、考えさせられる百二十年目です。

## 北丹後地震九十年

今月十一日で、東日本大震災から六年となります。仏教においては七回忌にあたる事から、故人を偲んでの法要が被災地各地で執り行われる事と想います。改めて震災でお亡くなりになられた方々の御霊の安らかなるをお祈り申し上げるばかりです。

さて、実は今月は昭和二年三月七日に発生した北丹後地震からも九十年という節目の年となります。この地震では梅田は震度四ほどでしたが、北野青物市場という当宮御本社近くの市場は壊滅し、阪急百貨店では大量の食糧が発生した為、食券導入の契機になったりと、様々なところで被害がありました。

大きな地震でも小さな地震でも災難に変わりはありません。日々の備え。これが大事です。

## うめきた菜の花畑

梅田は江戸時代、菜の花畑の広がる地であり、その事に由縁して、現在再開発が進んでいる、梅田北ヤードの第二期区域を、この三月の間、菜の花畑にしようという試みが行われ、三月中の毎週日曜日、午前十時〜十七時まで一般無料開放されます。

また特に三月十八日は「菜の花や月は東に日は西に」と与謝蕪村が詠ったように、満月と夕焼けが見られる日である事から二十時まで開園されます。入口は梅田スカイビルへと抜ける地下道入口横となっています。

## 御旅社手水流水停止について

一月二十一日に御旅社の揚水ポンプが故障し、三月一日現在におきましても、まだ修復に至っておりません。大規模な改修が必要になる事から、今もまだ調査が続いております。暖かくなる前までの復旧を目指しておりますが、その間、ご参拝の皆さまにおかれましては、お清めにご不便おかけしまして申し訳ございませんが、今暫くご容赦下さいませ。

## 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

